

## メディアアート課題

えのすい×TeamLab「ナイトワンダーアクアリウム 2015」

### 見学レポート

学籍番号：1323092

氏名：吉澤 政(ヨシザワ マサシ)

所属学科：情報メディア学科 3年

授業：メディアアート 火曜2限

レポート内容：「ナイトワンダーアクアリウム 2015」について写真などを交えた見学レポート

## 1.はじめに

えのすい×TeamLab「ナイトワンダーアクアリウム」とは、江ノ島水族館で行われたイベントである。TeamLabが協力の下、魚が展示されている水槽がプロジェクションマッピングによってライトアップされたり、展示物がない移動用の通路に仕掛けを施したりすることで水族館全体のエンターテインメント性と話題性を高めている。

それを表すように、右の写真は宣伝ポスターと江ノ島水族館の入口であるが、この日(12月23日)の天気は雨であるにも拘らず、チケット売り場は人が多少並ぶほどだ。……休日ということもあるかもしれないが。

このイベントは17:00スタート20:00終わりとなっており、水族館としても午後の売り上げに多大に貢献してくれているイベントなのであろう。それをサポートするように期間中では江ノ島水族館は手にブラックライトで光るスタンプを表明書として、水族館への再入場が許されている。この気配りは大変ありがたいものであり、私も何度か利用させてもらった。

これは、イベント発生箇所が多数あることと、一定時間での稼働だからであろう、水族館としても1つの通路内で魚は既に見て、イルミネーションは見えていないから戻る人と、まだ入ったばかりで何も見えていない人との行き交いを避けようという考えからだろう。

ここから先は、TeamLabが手がけた作品群を、写真と共に紹介していくページに入る。



図1：宣伝ポスター



図2：江ノ島水族館 入口

## 2. 作品紹介

### ・花と魚 - 相模湾大水槽

江ノ島水族館の中で最も主要にあげられているジンベイザメといった色々な種類の魚を住まわせている水槽にプロジェクションマッピングを飾ったものである。

写真上での作品はクリスマス ver のものであり、12/4 時点で既に変更されていた。1 時間 4 回、10 分ほどの稼働をし、5 分おきの休息を挿んでリピートされる。

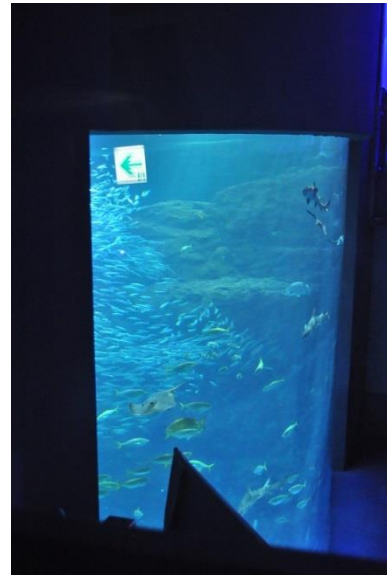
光は水槽証明より弱いものなので、暗い室内を明るくすることはあれ、水槽事態を見づらくするわけではない。また、マッピングは水槽の外側だけではなく、魚にマッピングが映る場合がある。これに影響されながら作品は変化するので、これらから作品はあらかじめ記録されたものを何度も映しているわけではなく、毎回違った演出を見ることが出来るのだ。

撮ることには失敗したが、エイの口がある方の面に映ったのを見たが、それは見事なものだった。

図 4：呼応する小さな海



図 3：相模湾大水槽：起動前



相模湾大水槽：起動後



### ・呼応する小さな海

ガラスに近づくと、音と共に水槽の光の色を変化させる。水槽に存在しているのは深海魚であり、それらの世界を再現していると見ることが出来る。

写真では青だが、これ以外にも赤や紫へと変化していた。

## ・お絵かき水族館

描いた魚が活着しているかのように、泳ぎ回る作品である。

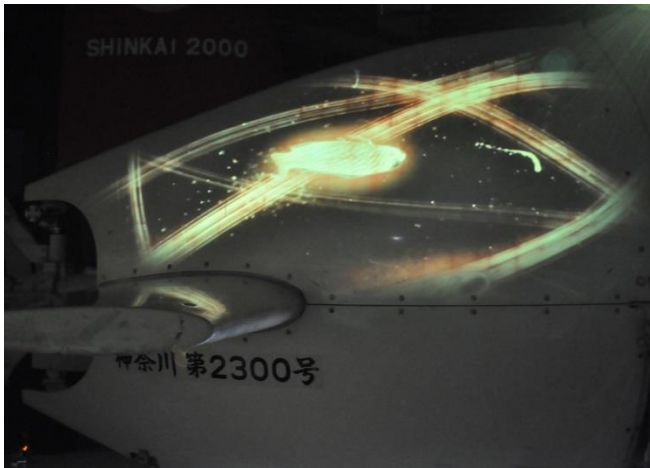
最初はスッカラカンである電子水槽の絵を映しているだけであるが、お客に絵を描いてもらい、それを水槽内に投影していく仕組みだ。水槽というだけ逢ってかかれた魚は飼われているという設定らしく、用意されたエサに反応するようになっている。

画用紙はタツノオトシゴ、クラゲ、クマノミといった子供のメジャー所の下書きがあるものにクレヨンで色づけしたものだ。それもあってか、子供人気強い作品であった。

図 5 : お絵かき水族館



図 6 : 空書ライン,魚,そして,深海 2000



## ・空書ライン,魚,そして,深海 2000

潜水調査線「深海 2000」がある室内において、光の空書で取り囲んだ空間として、深海 2000 の力強さや深さ、深い海の浮遊感を表しているとのことだ。

また、空書とは TeamLab が取り組んでいる空間に書く書のことである。書の墨跡が持つ深さや速さを、新たな解釈で立体的に再構築したようだ。

上の写真は深海 2000 と映りこむ空書、下の写真はその周りで彩りを飾っている空書だ。

黄金色のように煌いているそれは文字や線ではなく、ホタルイカのように発光する深海魚を表しているのだと私は考えている。

だが、これを作るには部屋を暗くしなければならないので、本来あった深海 2000 の説明等は読みづらくなってしまっているのがどうかと思うぐらいか。

## ・インタラクティブオーシャンバー

海の景色を眺められるテラス兼イルカショースタジアムまでの移動通路に置かれている作品である。

この作品を思い通りに起動させるには水族館のカフェなどで販売されているドリンクが必要であり、その色によってテラス内がそのドリンクの色に対応して変化し、夜の中が照らされます。設置箇所は数箇所あるので、2つ以上ドリンクを置けば、混ぜあった色に変化していました。

彩りされるのはテラス全体に及び、天井・テラスに設置されているクッションのイスもドリンクの色に変化します。基本色は白であり、写真左下のようにになっています。

この作品を楽しんでいたのは見たところカップルが多かったように感じられます。それとして、対応するドリンクがカクテル類(ノンアルコールもあったが)しかなかったことが挙げられるだろう。クリスマスという記念日もあってか、酒を飲んでいる人は少ないわけではないのです。

図7：インタラクティブオーシャンバー

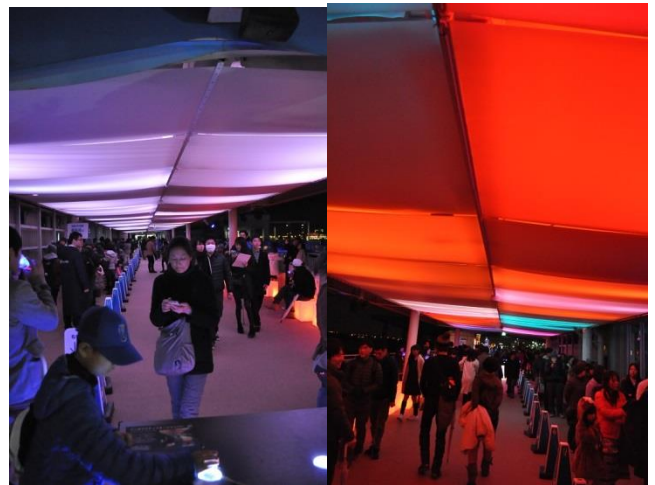


図8：チームラボカメラ



## ・チームラボカメラ

kinectのようにカメラに画面が写りタッチスクリーンを使うように撮影が出来る。背景は3通りあり、それぞれによって演出が違う。例えば、海を背景とする場合は、写真を撮るまでの準備時間の間、エイを好きな位置に移動させ、写真を撮ることが出来る。

撮った写真は Facebook にアップロードできる。下記がサイトへのリンクである。

<https://www.facebook.com/enosuiteamlab>

## ・海月の宇宙～クリスマス～

この作品は TaemLab が開発したものではなく、江ノ島水族館オリジナルの作品である。もともと人気がある作品であり、私が並んだときは 45 分待ちであった。

水族館の 1 区間の水槽の中身をクラゲのみにしており、それを演出の一部として海についての生態系や過去の景色を説明する映像群を紹介するという形式である。上映時間は 10 分ほどである。

写真は左上から右へと順に紹介されたものである。

図 9 : クラゲの宇宙

